

基 調 講 演

テーマ：ネイチャーポジティブの時代の流域治水

講 師：鳥取大学工学部 教授 宮本善和



略 歴

1982年 4月 - 1987年 3月 鳥取大学工学部土木工学科卒業
1987年 4月 - 2022年 11月 中央開発株式会社(環境, 防災, 合意形成関係の受託研究に従事)
1998年 4月 - 2001年 3月 鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程修了(博士(工学))
2006年 4月 - 2017年 3月 江戸川大学社会学部 非常勤講師
2022年 12月 - 現在 鳥取大学工学部社会システム土木系学科 環境計画研究室 教授

研究活動・著書他

【主な研究活動】

- ◆ 水環境保全における流域住民の参加に関する研究(1997年~2001年)
- ◆ 社会資本整備における合意形成技術の体系化(2000年~2006年)
- ◆ 遊水調節地の成立要件に関する調査研究(2003年~2005年)
- ◆ 流域環境経営アプローチと流域環境情報の共有に関する研究(2002年~2013年)
- ◆ 流域管理と地域計画の連携方策に関する研究(2009年)
- ◆ 八重山地方におけるサンゴ礁生態系の保全に関する研究(2004年~現在)
- ◆ 住民参加による斜面環境防災モニタリングシステムの開発(2021年~現在)
- ◆ 放棄農地の自然再生と流域環境治水への適用に関する研究(2022年~現在)
- ◆ 水辺と街空間の魅力の相乗効果の発現に関する研究(2022年~現在)

【主な著書】

- ◆ 「多自然型川づくり~施工と現場の工夫」(共著), リバーフロント整備センター, 1998年.
- ◆ 「ふるさとの川をつくり育てる~ふるさとの川整備事業事例集」(共著), リバーフロント整備センター, 大成出版社 2000年.
- ◆ 「社会資本整備における住民とのコミュニケーションに関するガイドブック」(共著), 国土交通省国土技術政策総合研究所, 2006年.
- ◆ 「湧水保全・復活ガイドライン」(共著), 環境省 水・大気環境局土壌環境課, 2010年.

講演概要

気候変動の影響を受けて多発する豪雨災害の適応策として流域治水の推進が急務となっており, 流域のあらゆるグリーンインフラ資源を探り出してその潜在的な治水機能を発現・増進させることが求められる。一方で, 生物多様性の損失を食いとめ, 回復の軌道へ転換させるネイチャーポジティブの推進が国際合意となっており, 河川や流域で生物多様性を高めていく取り組みを本格化する必要がある。そこで, 本講演では, 流域の潜在的グリーンインフラ資源として, 流域各地に増加傾向にある放棄農地に着目し, その自然再生を図る具体的手法を紹介するとともに, 放棄農地に貯留/遊水/遊砂機能を付加することでその潜在的な治水機能を発現させるアプローチについて概説する。このようなアプローチの適用によって, ネイチャーポジティブを促進し, 流域治水の機能強化にも大きく貢献できる。